

第8回 後谷湿地再生検討分科会 概要

日時:2025 年 1 月 28 日(水) 15:00~17:00

参加者:13 人 傍聴者なし

開催方法:ウェブ会議システム (ZOOM)

次第

1. あいさつ
2. 議事
 - (1) 再生湿地復元図修正レイアウト図について
 - (2) 再生湿地の維持管理計画について
3. 次回以降の日程と内容の確認

資料

- ・第8回分科会次第
- ・第8回分科会参加者名簿
- ・後谷再生湿地修正レイアウト図
- ・議事② 維持管理計画について

第8回西後谷湿地再生検討分科会では、後谷再生湿地の修正レイアウトと維持管理計画について議論が行われ、鉄道・運輸機構から3月上旬の工事開始予定と修正レイアウト図の作成中の報告があった。会議では開水路の小動物の這い出しへの影響についてグレーチングの使用方法が議論され、全面的なグレーチング使用の安全性と管理のしやすさのバランスを取ることで合意した。

後谷湿地再生検討分科会で再生湿地の維持管理計画について説明し、策定と実施の責任者について話し合い、次回の分科会は2月下旬に開催することが決定された。

・分科会会長:小動物が這い出せるようなスロープ構造の情報を鉄道・運輸機構に共有する

・鉄道・運輸機構:再生湿地の工事において、小動物が這い出せるようなスロープ構造の導入可能性を検討する

・敦賀市：再生湿地の維持管理計画を実施し、水路の流れが変化した場合の対応を行う

分科会会員：再生湿地の運用開始後、一年程度様子を見て水路の状況を確認し、必要に応じて調整を行う

鉄道・運輸機構：グレーチングの面積を増やす設計変更を検討し、水路の安全性確保のための注意看板を準備する。全面をグレーチングで覆えるだけの資材を用意し、実際の運用は管理者側で調整できるようにする。また、水路法面の構造や植生に関する視覚的な資料を準備する。

分科会会員：2月15日の「中池見湿地みんなで報告会」で分科会の内容を説明する際、再生湿地の図面について変更の可能性がある旨を断った上で公開する

分科会会員：湿地再生について広める際に、最新の図面情報を断りをつけた上で公開する

敦賀市：再生湿地の維持管理計画の実施を担当する

鉄道・運輸機構：工事完了から1年をめどに生物相全体の調査を実施する

概要

後谷湿地再生検討分科会

第8回後谷湿地再生検討分科会が開催され、主に後谷再生湿地の修正レイアウトと維持管理計画について議論された。鉄道・運輸機構は、3月上旬頃から工事を開始する予定で、現在修正レイアウト図の詳細図面を作成中であることを報告した。会議では、会員が3つの懸念点を提起した。第一に、河道内氾濫源の流路が変化した場合の堰板の部分が水から離れる問題、第二に開水路の長さ（約30m）が小動物の這い出しが困難な構造になる可能性、第三に再生湿地の水際について染み出し水が出やすく、多様な生物が生息できるような構造の必要性について議論された。開水路の小動物の這い出しが困難な問題については、グレーチング（網目状の金属製溝蓋）を全面的に使用するか、部分的に使用するかについて議論が行われた。最終的に、全面的なグレーチング使用の安全性と管理のしやすさのバランスを取ることで合意し、グレーチングの面積を増やし、落下の注意を喚起する看板を設置することが決定された。

図面共有と報告会計画

分科会会長は図面の共有と公開について議論し、一般図面は報告会などで共有することに問題ないと確認した。設計図の詳細な詳細図はまだ公開されていないが、最新の情報を共有することが合意された。分科会会員は2月15日の報告会でこの分科会について説明する予定であることを伝え、再生設置の設計については工事中に新たな課題が見えてくる可能性があるため、現場と情報共有を継続することを確認した。

再生湿地維持管理計画

分科会会長は後谷湿地再生検討分科会で、北陸新幹線深山トンネル工事による環境影響への代償措置として実施中の湿地再生設置の維持管理計画について説明した。既存の敦賀市の中池見湿地保全活用計画の各環境区分ごとの維持管理実施計画を参考にしながら、水田環境や草原、池・水路環境の管理方法を検討しているが、法面部分や氾濫原環境については新たな管理計画の策定が必要であると指摘した。具体的な保全対象種の定義や管理活動の頻度については、既存の草原環境の保全管理実施計画を参考にしながら、再生湿地特有の要素を組み込んで計画を進めていく方針が示された。

モニタリング調査について、既存の生物調査に加えて湿地の水分含有量や植生の監視が必要であることが確認された。参加者は個々の専門分野を活かした初期段階の調査を進めることに合意し、次回の分科会は2月下旬に開催することが決定された。